



新たな命が
生まれる
この場所で、
「人生」が交差する

レア・フェネール 監督 (『愛について、ある土曜日の面会室』) 作品

助産師たちの 夜が明ける

第73回
ベルリン国際映画祭
審査員特別賞

SKIPシティ
国際Dシネマ映画祭2023
観客賞

SAGES-FEMMES

KHADJIA KOUYATÉ HÉLOÏSE JANJAUD MYRIEM AKHEDDIOU QUENTIN VERNEDE TARIK KARIOUH LUCIE MANCIPOZ MARINE GESBERT FLEUR FITOUSSI MARUSHKA JURY TOULOU KIKI BILAL SIMON ROTH RICHARD LE GALL

Director LÉA FEHNER

Screenplay LÉA FEHNER & CATHERINE PAILLÉ Cinematography JACQUES GIRAULT Editing JULIEN CHIGOT Music JOSÉ FEHNER Sound Mixing GILLES BENARDEAU Sound Design PIERRE BARIAUD & SARAH LELU

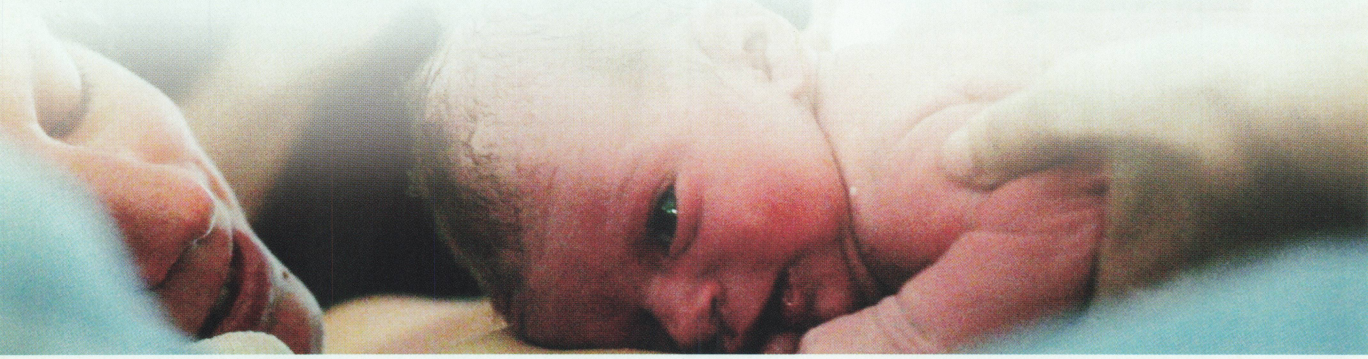
Sound EMMANUELLE VILLARD Production Design THOMAS GREZAUD Costumes MARINE GALLIANO Make-Up MORGANE LEVERD Casting LEILA FOURNIER & INÉS FEHNER Assistant Director DELPHINE DAULL Production Manager SAMUEL BILBOULIAN

Producer GREGOIRE DEBAILLY A production by GEKO FILMS In coproduction with ARTE France

With the participation of CENTRE NATIONAL DU CINÉMA ET DE L'IMAGE ANIMÉE With the support of RÉGION OCCITANIE, TOULOUSE MÉTROPOLE in partnership with the CNC. In association with CINECAP 5

In partnership with CONSERVATOIRE NATIONAL SUPÉRIEUR D'ART DRAMATIQUE

あるフランスの産科病棟——戦場のような日々のなか、助産師たちは悩み、喜び、生まれくる命を見つめ続ける



5年間の研修を終えたルイズとソフィアは、念願の助産師として働き始めるが、その期待に反するように緊張感が大きくのしかかる。貧困、移民、死産…様々な事情を抱えて産科病棟を訪れる人々。オーバーワークとストレスに押しつぶされそうになりながらも、新しい命に出会う日々の喜びが助産師たちの結束を強めていく。本作は、若い助産師たちが出産に立ち会い、突きつけられる現実に驚きながらも成長してゆく様子を、実際の出産シーンを織り交ぜながら、その場に立ち会っているかのような臨場感で描き出す。監督は「愛について、ある土曜日の面会室」(2009年)がヴェネチア国際映画祭正式出品を始め、ルイ・ドリュック賞等受賞のレア・フェネル。誰もが直面する普遍的なストーリーに、熱い共感の声が寄せられた。



新人助産師の初出勤——よろこそ、過酷を極める助産師の世界へ

ソフィアとルイズが初出勤すると、そこには想像を超える壮絶な仕事場が待っていた。常に何人もの担当を抱え走り回る助産師たち。ケアする十分な時間がないなか運ばれてくる緊急の産婦たち。患者の前で感傷的になるな、とルイズがベテラン助産師ベネに厳しく叱責される一方、ソフィアは無事に出産を介助し周囲の信頼を得ていく。そんなある日、心拍数モニターの故障から、ソフィアが担当した産婦は緊急帝王切開となり、赤ん坊は命の危険にさらされる——。さらには産後行くあてのない移民母、未成年の出産、死産したカップル…生と死が隣り合わせの現場で、二人は一人前になれるのだろうか？



助産師の声をもとに描き出した産科病棟のリアリティ ドキュメンタリーとフィクションを巧みに織り交ぜたその驚くべき手法

「世界で最も美しい職業」とも言われる助産師の仕事。だが、フランスでは厳しい労働条件や低賃金、不十分な研修等に対し実際に助産師たちが声を上げている。本作は、技術指導や編集にまで立ち会う等助産師たちの全面的な協力のもと製作された。脚本は「助産師と共に書く」ことにこだわり、実際の助産師の話から俳優が即興シーンを作り、これを基にカトリーヌ・パイエ（『みんなのヴァカンス』）と監督が共同執筆するというワークショップ的手法がとられた。俳優が実際の出産や赤ん坊の蘇生に立ち会うなど、産科病棟の心臓部分がそのまま凝縮されている。さらに、エロイズ・ジャンジョー、ミリエム・アケディウ（『TITANE/チタン』）を筆頭に、フランスの若手実力派たちが見事に演技で作品にリアリティを加える。



助産師たちの夜が明ける | 監督:レア・フェネル(『愛について、ある土曜日の面会室』) | 脚本:カトリーヌ・パイエ(『みんなのヴァカンス』)、レア・フェネル

出演:エロイズ・ジャンジョー(『危険な関係』)、ミリエム・アケディウ(『TITANE/チタン』『その手に触れるまで』)、カディジャ・クマテ

原題:Sages-femmes | 英題:MIDWIVES | 2023年 | フランス | 100分 | カラー | 映画祭上映タイトル:『助産師たち』 | 日本版字幕:松岡葉子 | 医学用語字幕翻訳協力:田辺けい子 | 宣伝広報:スリーブ | 配給:パンドラ

<http://pan-dora.co.jp/josanshitachi/>  @josanshitachi

8.16

「金」より公開

特典付き:スマートフォンで使える
オリジナル壁紙
ムビチケ前売券(オンライン)
¥1,600(税込)発売中!



有楽町イトシア イトシアプラザ4F
テアトルシネマグループ
ヒューマン・トラストシネマ有楽町
03(6259)8608 www.ttcg.jp